

MY DAUGHTER

Ferdinando Frega - Nando the Scribe



GILLETTE：私の娘

GILLETTE AUDIO — 書記ナンド — GILLETTENARRATIVE.COM

食卓についたばかりだった。彼女は向かいにいた。脇に座った妻が、どうして黙ったまま、ひと言もなく彼女を見つめているのかと尋ねた。

何かわけがあるのか、事情があるのか、そんなふうに私の注意を一点に集めたものがあるのかと。

私はホットドッグを食べていた — イタリアにいてさえ、私が口にできる最高のものだ — そして目は彼女の目を探していた。ジョルジャ。私の娘。その中に何が入っているのかを知ろうとして。

彼女は本当に私の一部だった。完璧な体に収まった、私の不完全さ。洗練された頭脳。ひとりの女。

あるとき彼女は立ち上がり、私がさっき言ったことに食ってかかった — ほとんど私を正すように、あの物腰、あの性格で — そして私の肩をぽんぽんと叩こうとした。母親が子どもにやる、あれだ。

だが私は父親にすぎなかった。そして微笑んだ。母に続いてもうひとり、同じ任務を帯びた女がそばにいるのだと思いながら。私を守るのではなく、管理するという任務。これが私の宿命だった。

なぜなのかと自問した。私の魂とは本当のところ何なのか。あの瞬間、私は誰を代表していたのか。本気で自分に問うた。おれはいったい何者なんだ、と。

私を知る人たちが口にするのと同じ問いだ。私を読む人たちが。そしていつの日か、ニューヨークのどこかの片隅から、彼らは屋台を引いた私を見かけるかもしれない。通りでホットドッグを無償で配っている私を — 人が笑うのを見る喜びのためだけに。61年間、ずっとそうだったように。誰にも代価を求めずに。

それが私という人間だからだ。

ナンド